Catalog 18-#4

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
プライス･コード{ａ￥１６９０/Ａ￥１８９０/Ｂ￥２０９０/Ｃ￥２２５０/Ｄ￥２４９０}
（表示価格は税抜き）　別途消費税が加算されます

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律２５０円》郵送
※代金引換送料（郵送）：初回 390 円/二回目以降 590 円何枚でも）

注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ 9/20 までにお願いします】
注文方法１の場合を除き、発送はご注文受取り後約５日以内にしたいと思っていますが、無理な場合もあります。締切日に近いご注文の場合は、２週間ほどかかる場合もあります。電話注文はお受けしておりません。
●お問合せはメールにてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●カタログは郵便にてお届けします。

（新入荷分中心のカタログ）
*皆さーん、夏バテしていませんか？今年の夏は暑くて長いですね。この夏は夏休みを取って（夏休み宣言をせずに勝手に夏休みを取ってしまって申し訳ありません）、あることに専念していました。それが形になったら、ご報告したいと思っています。
*どちらにせよ、猛暑の最中にカタログを送っても、注文する気にはなれなかったかも知れませんね。取り急ぎ「新入荷分中心」の通販カタログをお届けします。

（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は 11 月 15 日まででＯＫです。

＊TOP　30　SELLERS(18－#3)＊
1)DANU:Ten Thousand Miles(Ireland)
2)ANDY IRVINE & LUKE PLUMB
　:Precious Heroes(Ireland,Australia)
3)GENERAL HUMBERT:Ⅱ:Precious Heroes(Ireland,Australia)
4)HEIDI TALBOT & JOHN McCUSKER:Love Is The Bridge
　Between Two Hearts(Ireland,Scotland)
5)JOSIE DUNCAN & PABLO LAFUENTE
　:The Morning Tempest(Scotland)

6)LUNASA:Cas(Ireland)
7)SHIRLEY COLLINS:The Ballad Of Shirley Collins(England)
8)RITA COOLIDGE:Safe In The Arms Of Time
9)LAURA SMYTH & TED KEMP
:The Charcoal Black And The Bonny Grey(England)
10)BERNADETTE MORRIS:Where The Heart Is(Ireland)
11)JEFFREY MARTIN
:Dogs In The Daylight(Expanded Edition)(USA)
12)EUGENIA GEORGIEVA
:Po Drum Mome/A Girl On The Road(Bulgaria)
13)TOM RUSH:Voices(USA)
14)FERGUS McGORMAN
:Sweeping The Cobwebs Out Of The Sky(Ireland)
15)MARY CHAPIN CARPENTER:Sometimes Just The Sky(USA)
16)JANIVA MAGNESS:Love Is An Army(USA)
17)ANNA＋ELIZABETH:The Invisible Comes To Us(USA)
18)KEN WHITELEY:Freedom Blues(Canada)
19)RAY COOPER
:Between The Golden Age & The Promised Land(England)
20)LIONA & SERENA STRING:Sefarad(Spain)
21)LOREENA McKENNITT:Lost Souls(Canada)
22)RAY AUSTIN & FRIENDS:A Piece Of Heaven(UK)
23)DULAHAN:Airs And Gracenotes(Ireland)
24)BOB DYLAN AND THE BAND:1974 Tour Live(USA)
25)WILL STEWART:County Seat(USA)
26)CATRIN FINCH & SECKOU KEITA:Soar(Wales,Senegal)
27)STICK IN THE WHEEL:Follow Them True(England)
28)JOSHUA BURNELL:Songs From The Seasons(England)
29)ELLE MARIE O'DWYER:On A Day Like This(Ireland)
30)BARRY NISBET:A Bright Ray Of Sunshine(Scotland)

Re-issue, USA, Canada, British Folk, England, Scotland,Ireland,

USA(Trad),Canada(Trad), Europe ほか, NOW ARRIVAL, あとがき

[リイシュー/Historic Recording]
(LP/U．S．A.)
*SHIRLEY COLLINS:The Ballad Of Shirley Collins　¥3290
(限定カラー{桃色}LP 盤。Shirley Collins のドキュメンタリー映画から音楽を寄せ集めた 21 トラック収録の編集盤。ジョリジョリ音付きの Shirley Collins のナレーションそして麗しき Shirley のシンギングに始まり、1958 年 BBC 音源の Shirley バンジョーの弾き語りによるスウィートな"Wondrous Love"で幕を閉じる本作は、1959 年に S.Collins が Alan Lomax に付き添って、米国のフォーク・

ミュージック収集の旅を行った時の収録曲を中心に編集したアルバムで、Shirley や Dolly Collins の音源曲はわずか。だが、イングランドのトラッドやアイリッシュやアパラチア民謡やオールドタイム・ミュージックや霊歌やブルースなど、当時の米国の多様で豊かなルーツ音楽の記録アルバムとして実に興味深い。本作は米国フォーク～ルーツ音楽の素晴らしきドキュメントなのだ。2018 作。Earth)

(CD/U．S．A.)



(Joe Ely)

*JOE ELY:The Lubbock Tapes - Full Circle B

(Joe Ely の 1974 年と 1978 年の未発表音源からの 14 曲。1974 年収録曲は Flatlanders 解散後に Lloyd Maines,Greg Wright,Steve Keeton をバンド・メムバーに、1978 年収録曲は Jesse Taylor と Ponty Bone もバンド・メムバーに加えて活動していた時期の収録曲で、若々しく脂ののった Joe の土臭いヴォーカルとホンキー・トンク調のテキサス・ロック臭が立ちこめるバンド・サウンドは滅茶苦茶かっこよく、圧巻。1970 年代、Butch Hancock や Terry Allen そして Joe Ely 等がテキサスから台頭し始めた頃の熱い Joe Ely のロッキン・フォークだ。Lloyd Maines のスティール・ギターも最高潮！2018 作。Rack 'Em)

*DAKOTA DAVE HULL & SEAN BALCKBURN :North By Southwest B

(1978 年作の二枚目もデジタル・リマスターで再発。原盤は素朴な SSW 系アルバムを世に送り出していた Biscuit City。一枚目に較べて自然体の、内面から生まれてくるような唄と土臭いサウンドが何とも心地よい。これを超えるまろやかなアメリカン・ルーツ・ミュージックはあまりない。今聴いても、音楽は古くさいが瑞々しい。二人ともギター、上手いなあ。w.Tim O'Brien,Peter Ostroushko,Butch Thompson。1978 年/2017 作。Arabica)

(LP/ＢＲＩＴＩＳＨ　ＦＯＬＫ)

*BERT JANSCH:Moonshine ¥2890

(名盤中の名盤。LP 盤。1973 年作。1973 年/2015 作。Earth)

*BERT JANSCH:L.A. Turnaround ¥3090

(名盤中の名盤。1000 枚限定カラー{青}LP 盤。アルバム未収録曲４曲を追加収録したダウンロード・コード付。1974 年作。1974 年/2018 作。Earth)

(CD/ＢＲＩＴＡＩＮ＆ＩＲＥＬＡＮＤ他)

*BERT JANSCH:A Man I'd Rather Be (Part 1)　　¥4980
（ハードカバーブック型四枚組ボックスセット。ディスク１は1965年の"Bert Jansch",ディスク２は1965年の"It Don't Bother Me",ディスク３は1966年の"Jack Orion",ディスク４は1966年の"Bert and John"。ブックレットはBill Leaderによる新たな解説や未使用ジャケット候補など未公開写真など興味深い内容になっいる。保存版。2018作。Earth）
*BERT JANSCH:A Man I'd Rather Be (Part 2)　　¥4980
（ハードカバーブック型四枚組ボックスセット。ディスク１は1967年の"Nicola"",ディスク２は1969年の"Birthday Blues",ディスク３は1971年の"Rosemary Lane",ディスク４は1973年の"Moonshine"。ブックレットは英MOJO Magazine誌のライターDave Hendersonによる新たな解説や未使用ジャケット候補など未公開写真など。保存版。2018作。Earth）
*RAB NOAKES:Bridging the Gaps　　D
（二枚組。一枚目は1972年の"Rab Noakes"全収録曲＋ボーナストラック２曲と1978年の"Restless"のLPのA面全収録曲の計19曲で、二枚目は"Restless"のLPのB面全収録曲＋ボーナストラック２曲と1980年の"Rab Noakes"全収録曲＋ボーナストラック１曲の計18曲。本作の聞き物は1972年の彼の一作目"Rab Noakes"。Rabの音楽仲間等{ゲスト:Archie Fisher,Gerry Rafferty}とロンドンで収録された"Rab Noakes"は、初期Lindisfarneに通じるフォークロックが快い名盤。2018作。Neon）
*RAB NOAKES:The River Sessions　　C
（1982年のギター弾き語りライヴ集。Lindisfarneの演唱で馴染みのある"Together Forever"ほか自作曲11曲。SSWとしての彼本来の唄の魅力が味わえる。2003作。River）
*WIZZ JONES:Wizz Jones　　C
（これがWizz Jonesのソロー枚目。本作が発売された1969年という時代に、もう既にギター･スタイルもヴォーカル･スタイルも完成していて驚かされる一方で、彼が傾倒した米国ルーツ音楽の華やぎがちらほら音楽に顔を出していて面白い。ライナー･ノーツはLong John Baldry。Long JohnはWizzのバスキングの友だったそうだ。w.Clive Palmer,Dave Deighton。1969年/2017作。紙ｼﾞｬｹ。韓国Big Pink）
*GERRY LOCKRAN:Hold On - I'm Coming!　　C
（1967年作のGerry Lockranの一枚目。彼のブルースを中心にした米国南部音楽志向音楽は、ロック創生期のフォーク、ロック、ジャズなどの音楽性がごった煮的で、Gerryのアクの強い唄と相まって、時代の音楽を超えた圧倒感のが感じられる。興味深いのはバックを務めるDanny ThompsonやTerry Coxなど四名が叩き出すロックにジャズの要素が見え隠れしていて、Pentangleにつながる音楽性も持っていること。デビュー作にして名盤。1967年/2017作。紙ｼﾞｬｹ。韓国Big Pink）

[CD/ＵＳＡ]



(Weight Band)　(Mountain Heart)　(Levi Parham)

*THE WEIGHT BAND:World Gone Mad　A

(The Band の未発表スタジオ音源からの新作と言われれば、信じてしまいそうなくらい"The Band"臭さが立ちこめるウッドストックを拠点に活動する The Weight Band なるバンドのグレイトなアメリカン･ロック。バンドを率いるのは元 The Band の Jim Weider。加えて The Band 関連のバンドのメムバー等を加えた五人組。バンド名は The Band の"Weight"から採ったという。驚くのは、The Band のロックのヴォーカル･スタイルも音の構造を良く知っていて、果敢に体現していること。よくもここまで！驚くばかり。逆に言えば、The Band の偉大さがわかりもする。メムバーは、Jim Weider,Michael Bram,Brian Mitchell,Marty Grebb,Albert Rogers の強者達。本作は Levon Helm,Rick Danko,Richard Manuel の霊に捧げられている。2018 作。Must Have/Continental)

*MOUNTAIN HEART:Soul Searching　A

(女性シンガーの Molly Cherryholmes が抜けて四太郎のカントリー･ロックバンドになった Mountain Heart の新作。Molly が抜けたことで、彼らの、例えば New Grass Revival のようなタイプの米国ロックに憧れて、そのセンスを真っ直ぐに受け継いで、生真面目にビシッと演奏し、若々しくヴォーカル･ハーモニーしたようなカントリー･ロック。凄いと思うのは、全員がスタジオ･ミュージシャンでは？と思うようなツボを得た演奏とヴォーカル･ソロ＆ハーモニーを含めて、音楽が端正なこと。カントリー･ロックの旨みが凝縮された感じなのだ。時折、Little Feat のような「音」も入れたりして、ムムッと思わせもする。むしろ Molly が抜けて、彼ら本来の音楽の魅力が顔を出した感じだ。元気をありがとう。ゲスト:Kenny Malone,Stuart Duncan。2018 作。Compass)

*LEVI PARHAM:It's All Good　A

(マッスル･シュールズ産南部ロックに憧れるロッカーの Levi Parham がタルサ生え抜きのミュージシャンを集めて作った彼のバンドを従えて、旧マッスル･ショールズ{現 Portside Sound Studio}のスタジオで南部ロックしたアルバム。彼自身 The Band, Derek & The Dominos,The Allman Brothers Band のファンにお薦めと言っているが、Derek & The Dominos 風＋Little Feat 風な南部ロックは、憧れの場所での生録が見事に功を奏した感じで、野趣で無骨で勢いがあって凄い。名ラップスティール奏者の Jesse Aycock と名ブルース系エレキギタリストの Dustin Pittsley が前面に立ったギター･サウンドは、70 年代南部ロックの魂を宿していて、手に汗握る。Levi のブルージーかつソウルフ

ルなヴォーカルもグレイト。2018 作。Horton)

*TOM RUSH:Voices (CD) B
(LP)¥2890

(1941 年生まれの Tom Rush の新作。「新作制作はのんびりペースで」と決めていた T.Rush がようやくその重い腰を起こさせたのは、Jim Rooney と Jim の音楽仲間達。彼らの全面バックアップのもと制作された本作は、水槽から放されて産まれ育った池の中を自由に泳ぎ回る魚のように活き活き伸び伸びな Tom Rush 翁の唄のオンパレード。収録された新曲のすべてが、聴き親しんだ Tom Rush 節で、しかも超快調。全 12 曲中、二曲の伝統曲以外は Tom の新曲で、約半数は、ニューハンプシャーの極楽なカントリーサイドにある友人宅で作ったという。Jim Rooney と Jim の仲間達による音楽は、最高に快楽で、Tom の唄は終始にこやか。そしてリスナーもにこやか保証。2018 作。Applessed)

*TOM RUSH:Celebrates 50 Years Of Music D

(CD+DVD セット。Tom Rush の音楽人生 50 周年記念のライヴ。録音は 2012 年 12 月 28 日。DVD を見た。ゲスト{David Bromberg,Jonathan Edwards,Buskin&Batteau,Dom Flemons}全員集合のもと、Tom Rush の唄"Hot Tonight"で幕開けした後、ゲストの唄が 7 曲。Tom の出番はその後、8 曲。ひょいっと 70 年代にタイムスリップ。映像で見る Tom は現役バリバリの印象。ボーナスにはインタビュー、リハーサル風景そして David Bromberg の"Tongue"他 4 曲がライヴで収録されている。CD は DVD 収録曲 16 トラックから 13 トラックを収録。2013 作。Appleseed)

*WILL STEWART:County Seat A

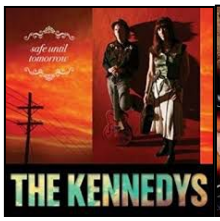
(ソロ名義のアルバムだが、カントリー・ロック・スタイルの音楽。SSW でヴォーカルでギタリストの Will Stewart の本作は、彼の故郷アラバマに帰郷したときにアルバムのアイデアが浮かんだという。エレキギター、スティールギター、バンジョー、ドラムス、ベースそれに女性シンガー Janet Simpson とのデュエットなど、美味しすぎる輝き感のあるカントリー・ロックに惚れ惚れ。Will のヴォーカルはやや Dylan ぽくもあるが、Larry Murray のような Sweet Country な甘み感があって、後ろ髪引かれる魅力がある。スティールギターをフィーチャーした大好きな「音」に夢見気分。2018 作。Cornelius Chapel)

*JEFFREY MARTIN:Dogs In The Daylight(Expanded Edition) A

(三枚目"One Go Around"で初体験し、惚れ込んでしまった SSW の Jeffrey Martin の 2014 年作の CD にボーナス・トラック 4 曲を加えて"Expanded Edition 版"として新に発売された 19 曲収録 CD。ドラムス、ベース、ピアノ他による伴奏だが、基本的にギターの弾き語りを中心にした Jeffrey の唄は、三枚目で惚れ込んだ唄そのままに渋くて味わい深く、言葉を噛みしめるようにうたう Jeffrey の唄は最高潮。何と言うか、やはり 70 年代の米国 SSW/フォークの、それもコアな匂いを発する雰囲気ある唄は彼独特な味わいがあって、聴き惚れてばかり。本作も Bob Martin クラスの渋々で Great な SSW アルバム。ゲスト:Anna Tivel。2014 年/2018 作。Fluff And

Gravy)
*JEFFREY MARTIN:One Go Around A
(三枚目。2017 作。Fluff And Gravy)
*CHIP TAYLOR AKA JAMES WESLEY VOIGHT:Fix Your Words A
(ジャケット写真は Chip Taylor が子どもの頃の家族写真。左端が Chip で右端が母親の Barbara。Side A"Fix Your Words"、Side B "When I Was A Kid"と分けられた本作は、これまでの Chip Taylor のどのアルバムより声が年老いた風で、祈りや哀しみや懐かしむ気持ちが込められていて、唄が心にしみわたる。元々語りかけるように悠々と自作の唄をうたう Chip だが、彼の持ち味をさらに煎じ詰めた味わいを極めていて、感動の深さが深い。現時点で 2018 年の SSW アルバムのベスト。2018 作。Train Wreck)
*JOHN GORKA:True In Time A
(廃業した Red House の最後の作品になった John Gorka の新作。この 10 年間してきたように古い校舎で参加メムバーが集まって、演奏してから録音したという。J.Gorka はまるで思い出の詰まった実家に帰って、たっぷりと落ち着いた気分で、数々の「思い出」を唄にしてうたっているかのような、唄にも音にも何か懐かしさや寂しさ感じられるものになっている。このようなしみじみ感はこれまでの John Gorka のアルバムでは味わえなかったのでは？本作は J.Gorka のプロデューサー John Jennings{2015 年没}に捧げられている。2018 作。Red House)

[CD/ＵＳＡ{female}]







(Kennedys) (Martha Fields) (Jennifer Warnes)

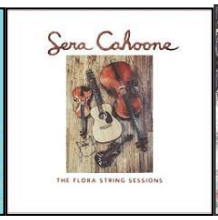
*KENNEDYS:Safe Until Tomorrow A
(Pete & Maura Kennedy の夫婦デュオ"Kennedys"の新作。11 曲中９曲が Maura 又は Maura & Pete の作曲による本作は、Roger McGuinn や Byrds の西海岸ロックの美味しいとこ取りしたような Kennedys らしいいつもの常若なロック。音作りの要はギター名手の Pete。Pete は今もなお西海岸ロックの輝くサウンドを追求し、Pete が創作した常若なロックに包まれて、Maura は羽根を大きく広げて飛ぶように伸び伸びとうたう。いつも夢の中にいるような彼らの輝きを失わない西海岸ロックは、いつもまぶしい。本作は一段と輝いて聞こえる。元気の素。2018 作。The Kennedys)
*MARTHA FIELDS:Dancing Shadows A
(南部魂というか、ヴォーカルにもフォーク、ブルース、カントリー、ブルーグラスごった煮のロックにも南部フィーリングがみなぎる Martha Field の新作。彼女はフランスにも自宅があって、米国とフランスを行き来する生活を送っているそうだが、彼女と彼

女のバンドが体現したロックは、オール・アメリカンな音楽がそこかしこに感じられて、ダウン・トゥ・アースで、何よりポジティヴ志向なのが良い。彼女のヴォーカルの基礎的な部分で、アパラチア民謡や古いカントリーの匂いが感じられるのも、彼女のヴォーカルの大きな魅力になっている。バックで気概あるロックを叩き出す強者達は、Manu Bertrand, Serge Samyn, Urbain Lambert, Olivier Leclerc, Denis Bielsa。2018 作。Martha Fields)

*JENNIFER WARNES:Another Time, Another Place A

(その存在すら忘れかけていた Jennifer Warnes の 17 年振りの新作。Leonard Cohen とのつながりで親交を持つ C.Roscoe Beck との共同プロデュースで、テキサス州オースティンで録音された本作は、Mickey Newbury や Ray Bonneville や Warren Haynes や Mark Knopfler などの「良き唄」一曲一曲に身を委ねるようにうたわれていて、彼女のヴォーカルもバックメンの音も自然体で最高に快い。気負いのない彼女のヴォーカルは、「良き唄」の味わいを深め、「良き唄」一曲一曲を優しく輝かせている。71 歳の御年になった Jennifer からこれほど心に響く SSW アルバムが届くとは夢のよう。w. Sonny Landreth, Greg Leisz, Dean Parks, Mike Cross, Lenny Castro, Vinnie Colaiuta, Blondie Chaplin, etc. 2018 作。BMG)







(Karen Jonas) (Sera Cahoone) (Hadley McCall Thackston)

*KAREN JONAS:Butter A

(2017 年と 2018 年に某新聞の読者投票で"Best Local Band/Vocalist"賞を受賞したというルーツロック系 SSW の Karen Jonas の新作。彼女の音楽性はカントリー、フォーク、ブルース、ジャズ、ラグタイムなどオール・アメリカンくらいの幅で幅広い。Karen はそんな豊かな音楽の海を自由に泳ぐように、時にパンチを利かせてうたい、時に甘みを利かせてうたい、時に散歩しながら口ずさむようにうたう。その軽やかな変幻さと表現力の豊かさは特筆すべきで、彼女の持ち味である艶やかなヴォーカルに裏打ちされて、通常の女性 SSW＋ルーツロック・バンド＋αの魅力が花開いている。シンガーとしての個性はやや異なるが、Maria Muldaur くらいの音楽性の幅で、自在にうたいこなす力量と魅力を持つ女性 SSW だ。2018 作。Karen Jonas)

*SERA CAHOONE:The Flora String Sessions a

(女性 SSW の Sera Cahoone の 100%新鮮野菜な美味しいアルバム。初めて知った SSW だが、ギターやヴァイオリンやチェロの気持ちの良いアコースティック・サウンドの流れに乗って聞こえてくる Sera の耳元でささやくような唄の何と心地よいこと！Sera の唄はどの唄もリラックスしていて、自然体で、その響きは何か懐かしさを覚える響き。たった７曲のみの唄だが、むしろその少なさ

が逆に一曲一曲の味わいが深く感じられるような気がする。SSW は誰もがホロリの逸品。2018 作。Galaxy Dog Music)

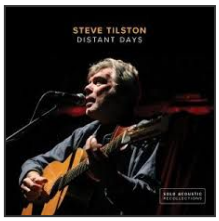
*HADLEY McCALL THACKSTON:Hadley McCall Thackston A

(南部ジョージア州生まれの女性 SSW の Hadley のデビュー作。録音はカナダ。そのせいかカナダの女性ユニットの Be Good Tanyas や Po'Girl の音楽と通じるブルースやフォークやカントリーやジャズなどをミックスしたオールドタイミーな音楽を一人でやってのける。Hadley の場合は Be Good のようにショーアップしたものではなく、、オールドタイミーな音楽が板に付いているというか、ジャケ写のようにリラックスした感じでゆったり感がある。それはおそらく生まれ育ったのがジョージアであることと関係してのことだろう。彼女自身自分の音楽を「南部フォーク」と言っているが、そう言われれば、「南部フォーク」の煮込んだ味わいが深い。2018 作。Wolf Island/Continental)

*JANIVA MAGNESS:Love Is An Army A

(ブルース～南部ロック女王 Janiva Magness の意地でも「南部ロック」な徹頭徹尾南部ロック志向の堂々たる新作だ。プロデューサーは Janiva の名盤"Love Wins Again"{2016 年グラミー賞"Best Blues Album"賞受賞}を手がけた Dave Darling。Janiva のめちゃソウルフルなヴォーカルとホーンと女性バッキング・ヴォーカル隊を配したバンドによるずっしりと南部臭く、豊穣感ある南部ロック・サウンドにワクワク。全てが横綱級。ゲスト:Delbert Mclinton{Janiva とデュエット!},Rusty Young,Charlie Musselwhite 他。2018 作。Blue Elan)

[CD/UK, IRELAND]



(Steve Tilston)

*STEVE TILSTON:Distant Days B

(見開きのデジパックを開けば、70 年代の SSW/フォークの LP のような土の香りのする色あせた感じの意匠。収録曲 19 曲全曲が Steve のギターの弾き語り。本作を制作する意図もおそらく Steve 自身の原点に立ち返る意志を持って望んだのだろう。SSW 系ブリティッシュ・フォークの原点というか、70 年代ブリティッシュ・フォークのギターの香りに充ちたギターをお伴にした Steve の唄は、昨今、ほとんど聴くことが出来なくなったギター弾き語りの「真摯な唄」で貫かれていて、懐かしい響きなのにすこぶる新鮮。70 年代 SSW/ブリティッシュ・フォーク・ファンへの最高のプレゼント。誰もが感涙必至。2018 作。Riverboat)

*RAY COOPER:Between The Golden Age & The Promised Land B

(元 Oysterband で現在スウェーデンで暮らす SSW でマルチ楽器奏者

のRay Cooperのソロ。トラッド曲２曲以外は全曲自作曲。面白いのは全体的に英国フォークの味わいが深まっていること。例えばアイスランドに移り住んだChris Fosterが英国トラッドを凛として志向したアルバムを制作していたのに対し、Rayの場合、凛として志向した音楽は、Ralph McTell風英国叙情漂う英国フォーク。Rayにとっての目指す音楽の理想型はそうした音楽で、英国トラッド風味を適度に加えながら、純粋に独自の英国フォークの味わいを高め、深めている。スウェーデンに移り住んだからこそ結実しえた「ワンマン・バンド」による豊潤な英国フォーク。2018作。Westpark)

*RAY AUSTIN & FRIENDS:A Piece Of Heaven B

(1943年英国ヨークシャー生まれで1970年にドイツに移り住み、フォーク&ブルース・クラブの経営をし、SSWとしても活動してきたRay Austin翁と仲間達による本作は、1970年代SSWファンにとって、終始夢見心地な音楽。Ralph McTellの"Street Of London", Bert Janschの"Needle Of Death"やJohn Primeの名曲三曲等など、SSWファン泣かせの曲を仲間達とゆるく懐かしむように演奏しうたう。聴き親しんだ曲が多いが、どの曲もRay翁色の唄と化していて、一曲一曲が味わい深い。極上の「ヒューマン・ソング」。全17曲。2017作。Wonderland)

*BARRY NISBET:A Bright Ray Of Sunshine B

(初めてお耳にかかるシェトランド出身のSSW。録音はスコットランドのパースシャー。Gordon Lightfootのような節回しによる穏やかで、ちょっぴりしみじみ感のあるヴォーカルは、北米のSSWの資質で、ほわっと心穏やかな気分になる。録音はおそらく普段から一緒に活動をしている気心の知れた音楽仲間によるグループ編成で、風通しの良いアコースティック・サウンドと女性シンガーによるそよ風のようなヴォーカル・ハーモニーなど、何ともフレンドリーで牧歌的。そうそう、三曲目の"Brydon & Anona's Wedding Waltz"は、自身のフィドルをフィーチャーしたインスト曲で、スコティッシュの香り高い演奏は、心に響く。そうか、彼はシェトランド人だったんだ。2018作。Barry Nisbet)

*BRIAN O hEADHRA & AIMEE LEONARD:Saoirse B

(AnamのBrianとAimeeの二人によるヴォーカル・デュオ・アルバム。70年代優美ブリティッシュ・フォークにアイリッシュ＆ケルティックな優美さを織り交ぜたようなコンテンポラリー・フォーク。AimeeとBrianのほわっと夢見心地なヴォーカルとケルティック情緒なアコースティック・サウンドが魅力でしたね。1995作。Anam)

*LISA KNAPP:Till April Is Dead - A Garland of May B

(「春眠暁を覚えず」というか、「春」の訪れを夢見心地のまま感性を優しく研ぎ澄ませて、柔らかな感性で伝統歌の数々をLisaがシンギングした春いっぱいなトラッドだが、ブリティッシュ・フォークっぽいアルバム。川のせせらぎの音や鳥の鳴き声や鳩時計の時報を知らせる音や奏法の枠を超えたどちらかと言えばノイジーで愉快な各種楽器の音などが鳴り響く中、Lisaは春の夢の中で遊ぶ少女のように"Till April Is Dead"や"Searching For Lambs"

や"Lark In The Morning"などの春向け{英国では初夏?}の伝統歌を夢うつつに口ずさむ。Donovan の"HMS"に通じるおとぎ話的ブリティッシュ・フォークの世界。奇跡の一枚。全 12 曲。2017 作。Ear To The Ground)

*LISA KNAPP:Wild And Undaunted B
(一枚目。2006 年。Ear To The Ground)

*JOHN SPILLANE:All The Ways You Are B
(Christy Moore や Karan Casey や Pauline Scalon や Muireann Nic Amhlaoibh などのアイルランドの著名トラッド系シンガー達によってレコーディングされても知られる John Spillane の新作は、SSW として 35 年以上にわたる活動の中で世に送り出した自作曲 11 曲をギターの弾き語りで、気分新たに再演したもの。身にしみるような、時に魂を鼓舞するような響きを発するギターをお伴に、John はアイリッシュ英語のニュアンスを強調するような唄い方で、言葉を噛みしめるようにうたう。静けさの中、人生の悲喜交々感が宿った唄、一曲一曲が心に響く。2017 作。Inspired)

*JOHN SPILLANE:A Rock To Cling To B
(欧米の SSW の中でも屈指の SSW の John Spillane の 2011 作。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w.Pauline Scanlon,Donogh Hennessy,Brendan O'Sullivan,etc. 2011 作。EMI)

*GLEN HANSARD:Between Two Shores B
(アイルランド人 SSW、Glen Hansard の三作目に当たる新作。彼の Frankie Miller をも想起させるソウルフルなヴォーカルは、たっぷり余裕があって、かっこよく、加えて、どういう連中か知らないが、ホーンを含めたロックは、熟達した感のある米国南部志向のロックで、全ての南部風要素をミックス・ジュースにしたような上質の旨みがあるロック。明らかに米国の南部志向音楽に影響を受けたであろう SSW だが、そうした音楽性を志向しつつ、独自の唄の世界とロックの世界を体現していて、凄い。2018 作。Plateau)

*JOHNNY COPPIN:All On A Winter's Night B
(デビュー当初から愁いのあるブリティッシュ・フォークで魅了してきた Johnny Coppin の待望の新作。聴いた時期が良かったのか、新春仕事始めに聴いた Johnny Coppin の冬向きの唄の数々は、どの唄も誠実で初々しくかつ愁いがあって、心身の芯からリフレッシュさせられる 120%J.Coppin な純良ブリティッシュ・フォーク。今年で 72 歳になる彼のハイトーンのヴォーカルと清々しい英国フォーク・サウンドは、まるで今が旬のように愁いを保ちながら輝いている。彼のベストの出来映え。w.Paul Burgess,Dik Cadbury,Karen Tweed,Geoff March,Steve Trigg,David Pickering-Pick。2017 作。Red Sky)

[CD{DVD}/FAIRPORT&ALBION FAMILY]





(Judy Dyble)　(Fairport Convention)

*JUDY DYBLE:Earth Is Sleeping　B

(その昔 Fairport,Trader Horne のシンガーで Giles,Giles & Frip にも参加した Judy Dyble の新作。2017 年の５曲入ミニアルバム"Songs In Waiting"全曲と新録曲８曲を加えた 13 曲。昔取った杵柄の底力は強い！本作発売時 68 歳の Judy の本作は、Giles,Giles & Frip 的プログレのセンスを抑え気味に活かした白昼夢的なブリティッシュ・フォーク。英国風美意識のセンスに充ちた夢見心地な Judy のヴォーカルと優美なサウンドは、彼女の音楽の静かな集大成のように円熟を極めている。ヴォーカルを含め、すべてのサウンドが英国情緒に充ちている。Produced by Alistair Murphy。2018 作。Acid Jazz)

*FAIRPORT CONVENTION & FRIENDS
:A Tree With Roots～And The Songs Of Bob Dylan　A

(レコード会社は面白い企画をするもんだ。Fairport による Bob Dylan ソング集。Fairport や他の英国フォークのシンガーがせっせと Bob Dylan ソングをやっていた 70 年代はじめ頃「ディランより良いじゃん」とよく思ったもの。個人的には Fotheringay の"Too Much of Nothing"{本作にも収録}が一番の衝撃だったが、こうして Judy Dyble,Ian Matthews 時代の最初期 Fairport から 70 年代半ばまでの Fairport が演唱した Dylan ソングがスタジオ＆ライヴ音源でまとめて聴けるのはまた新たな感動。Roger McGuinn 作一曲とトラッド一曲を含む全 17 曲。2018 作。Island)

[CD/ＥＮＧＬＡＮＤ]





(Jackie Oates)　(Rachael McShane)

*JACKIE OATES:The Joy Of Living　B

(世の中にどれだけ良い唄{トラッド}があるのだろうと、昇天する思い出聴いた Jackie Oates の待望の新作だ。本作は彼女の娘の Rosie が誕生した五日後に父親が突然敗血症で亡くなり、慶びと悲しみで気持ちの同様が激しかったという。一曲目は父親と一緒に演奏した最後の曲という Hamish Henderson 作の"Freedom Come-All-Ye"。このほのかに悲哀感を感じさせつつも凛とした美しさ

は全編を通して感じられ、John Lennon の「母さん、いかないで!父さん、戻ってきて!」の歌詞が印象的な"Mather"と自作の「春はやがてやってくる」をメドレーにした曲や子ども目線の唄など、家族という絆の中で、厳選された唄は、しみじみとして、温かく、美しい。John Spiers や娘 Rosie{雑音}を含めて、8 名のミュージシャン＋赤ちゃんが伴奏者として名を連ねてはいるが、生まれた音はシンプリシティを維持していて、素朴なトラッドの旨みが見事に醸成されてる。結果的にアルバム・タイトル"The Joy Of Living"{Ewan MacColl 作}をしみじみと味わわせてくれる珠玉のアルバムとして結実している。唄は生き物です。全 16 曲。2018 作。ECC)

*RACHAEL McSHANE & THE CARTOGRAPHERS
:When All Is Still C
(Bellowhead のオリジナル・メムバーでフィドル＆ヴィオラ奏者の Rachael McShane の９年振りのソロ。Bellowhead との演奏活動から離れて、改めて自分のルーツのトラッドと向き合って制作された本作は、"Two Sisters"や"Barley And Rye"や"Sheath And Knife"や"Sylvie"等々の伝統歌を持ち前の佳麗な美声で、素朴だが優麗に生えるトラッド・シンギングで魅了する。伴奏者はギターの Matthwe Ord とメローディオンの Julian Sutton の二人のみだが、粒立ちの良いギターと躍動感あるメローディオンのサウンドは、深みのある彼ら流の艶やかな英国トラッド・サウンドを創りだしている。全 13 曲/11 トラック。2018 作。Topic)

*JOSHUA BURNELL:Songs From The Seasons B
(本作は 1970 年代の英国フォーク・ロックに憧れるフォーク・ロック・ミュージシャンの Joshua Burnell が立ち上げた「フォーク・ロック」プロジェクトによる英国フォーク・ロック・アルバム。彼がインスパイヤーされたというミュージシャンは、Martin Carthy, Shelagh McDonald, Barry Dransfield, Anne Briggs, Bruce Springsteen, Sandy Denny 等。本プロジェクトに参加したミュージシャンは 20 人以上。"Two Magicians"や"Tam Lin"や"High Germany"や"Lord Franklin"や"Reynardine"等のトラッドやフォークの名曲を Fairport を若返らせたようなノリで"Folk Rock"する。ヴォーカルを取る Joshua は英国フォーク・シンガーとしての魅力ばっちりで、光沢感のある独自のフォーク・ロックを体現している。憧れが花開いた美しく健やかな英国フォーク・ロックだ。聴いていて笑顔。全 14 曲。2018 作。Misted Valley)

*THE RHEINGANS SISTERS:Bright Field B
(Rowan{ﾌｨﾄﾞﾙ、ヴｨｵﾗ、ヴｫｰｶﾙ、ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ} & Anna{ﾌｨﾄﾞﾙ、ヴｫｰｶﾙ、ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ他} Rheingans 姉妹の新作で三枚目。スウェーデンのフィドル・ミュージックの影響を強く受けつつ、シンギングに関しては極めてイングランド的な気品と美しさを持つ姉妹の音楽は、本作でも絶好調。二台のフィドルは、スウェーデン調の美しい音色を輝かせて舞い踊る。美しく清々しい姉妹の北欧風味の、しかし感性は極めてイングランド的なトラッド・アルバムだ。天下一品。2018 作。Rootbeat)

*MOONRAKERS:Tides C

(Moonrakers は三姫一太郎～Jon Bennett{ヴォーカル、ギター、ブズーキ他}, Sarah Fell{ヴォーカル、ギター}, Eleanor Dunsdon{ハープ、ヴォーカル}. Liz Van Santen{フィドル、コンサーティーナ、ヴォーカル}の四人組トラッド・グループ。レパートリーはイングランドとスコットランドを中心にした伝統曲と自作曲だが、ハープをフィーチャーした音楽は米国の Golden Bough のような柔和さやふくよかさのある爽やかトラッド。美しく清爽感のある Sarah のシンギングとセンスの良さが光る Eleanor のハープは Golden Bough の音楽を超える魅力を輝かせている。ハープ奏者に人気で、ぼくも大好きな Catriona McKay 作の"Swan LK243"他夢見心地な全 13 曲。2017 作。Moonraker)

*ANGE HARDY:Bring Back Home C

(音楽、ブックレット、イラストなど全て幻術品で芸術品の夢物語フォーク・シンガーの Ange の新作。本作はテーマを決めずに台所のテーブルで唄を創ったという。その結果生まれたのは悪魔を追いかけまわしたり、家庭に回帰する音楽になったという。そんな自作曲 12 曲と伝統歌二曲の計 14 曲を収録した本作は、ケルト音楽風優美さと英国トラッド風優美さが感じられる不思議な夢物語歌として結実している。その本質的に物語歌のフォーク/トラッド志向を強く保持した上での幻術的な音楽性の高さは、比類がないほど秀逸。P28 のブックレット。ディスクには悪魔を追いかける絵。2017 作。Story)

*ANGE HARDY:Esteesee C

(英国のロマン派の詩人サミュエル・テイラー・コールリッジ{1772 年-1834 年}の詩にインスピレーションを得て創作されたアルバム。ブリティッシュ・トラッド/フォークの真の優美さを表出。独自のイングランド版的夢想浪漫世界を創出していて素晴らしい。w.Steve Knightley,Patsy Reid 他。P28 のブックレット付。2015 作。Story)

*KATE RUSBY:Angels And Men C

(Kate のクリスマス・アルバム。二年前の"The Frost Is All Over"が Kate Rusby with Damien O'Kane の「シンギング・ウイズ・ギター」を要にしたクリスマス・アルバムだったのに対し、本作は「シンギング・ウイズ・バンド」による彩り感のあるクリスマス・アルバム。Kate 自身のシンギングはいつものシンギングだが、フリューゲルホーンやコルネットなどの吹奏楽器を加え、かつフォーク、ロック、ジャズなど様々な音色で彩る Damien のギターとバンジョーの演奏は、Kate 本来の魅力に加えて、Kate 独自のトラッド音楽の世界の幅を独自の手法{フォーク・ロック風ではなく、ブラス・モンキーなどの伝統的ブラス・サウンドと多様な音楽性をミックスさせる手法}で広げていて、魅力的。全 13 曲。2017 作。Pure)

[CD/ＷＡＬＥＳ]



(Calan)

*CALAN:Deg - 10 A

(前作"Solomon"でウエールズを代表するトラッド･バンドに成長した三姫二太郎の五人組の Calan の新作。新録曲３曲とライヴ音源曲２曲{特にこの二曲は圧巻。}とシングル盤収録曲を新たにリミックスした２曲と既発売アルバムから 11 曲の計 18 曲収録。ソリッドに勢いのあるケルティックな音楽と男女のシンギングは、今日のケルティック･ミュージック･シーンの最前線に立つ魅力を放っていて、非の打ち所がない。ウエールズのダンスのリズムを活用した躍動感あるサウンドや女性シンギングをフィーチャーしつつ、男女一体となったシンギングなど、トータルに充実さがみなぎっていて、華もあるし、馬力もある。2018 作。Sain)

*ALLAN YN Y FAN:NEWiD A

(Catrin O'Neill なる女性トラッド･シンガーとフィドル弾きの Alan Cooper を新メムバーに迎えた新生 Allan Yn Y Fan の新作。Allan Yn Y Fan 自体の音楽は、70 年代のブリティッシュ･トラッド風な土臭いトラッドで昨今のハイセンスなケルティックなトラッドとは一線を画した大御所トラッドの風合いで、Catrin の庭の花々的に優美なシンギングにお似合いのサウンドで、Catrin のシンギングも素敵に生えている。本作でのラインナップは三姫三太郎の六人組。2016 作。Steam Pie)

[CD/ＳＣＯＴＬＡＮＤ]









(Tannahill Weavers) (Daimh) (Ho-ro) (Lindsay&Ken)

*TANNAHILL WEAVERS:Orach A

(Tannahill Weavers 結成 50 周年記念アルバム。現メムバーは Roy Gullane, Phil Smillie, John Martin, Lorne MacDougall の四名。元メムバーの Dougie MacLean, Alan MacLeod, Duncan Nicholson, Iain MacInnes, Kenny Forsyth. Hudson Swan, John Cassidy, Mike Ward, Ross Kennedy 等に加えて、Llan de Cubel, Alison Brown, Aaron Jones 等の彼らの友人ミュージシャンも加えた Tannahill ＋αの演唱は、彼らならではのコティッシュ･トラッドの王道を行く円熟のトラッド。その王道さは、泣き節が多かったり、ヴォ

ーカルも演奏も「ハーモニー」が冴えていて、全員が50周年を祝う心に響くアルバムになっている。幸せ気分保証。Tannahillの一枚目と二枚目はPlanxtyくらい衝撃的だった。50周年おめでとう！2018作。Compass)

*DAIMH:The Rough Bounds B

(Daimhがこれほど胸キュンなスコティッシュ･トラッド･バンドに成長していたとは知らなかった。本作からBattlefield BandのAlasdair Whiteが加入して、一姫五太郎の六人編成になった。一番の驚きは女性トラッド･シンガーの、デビュー時のJulie Fowlisを彷彿させる歌姫Ellen MacDonaldのゲール語のシンギングの見事さ。基本がしっかりしていて、個々のシンギングが曲調に染まって冴えに冴えている。わけてもパイプ＆ホイッスル奏者のAngus Mackenzieのハイランドパイプスを伴奏にしたマウス･ミュージックは絶品中の絶品。バンド･サウンドとしてもAngusのパイプ＆ホイッスルの演奏がスコティッシュらしさを高めていて、ワンランク上のスコティッシュ･トラッドを創作し切っている。2018作。Daimh)

*DAIMH:Moidart To Mabou A

(2000年リリースのDaimhのデビュー作。現在も残っているメムバーは、Angus MacKenzieとRoss Martin{ｷﾞﾀｰ}とGabe McVarish{ﾌｨﾄﾞﾙ}の三名のみ。改めて聴くと、Colm O'Ruaのバンジョー＆マンドーラとJames Bremnerのバウロンが加わった五太郎による音楽は、ケープブレトンの曲を中心にアイリッシュとスコティッシュを加えたおじん臭い選曲で、古いスコティッシュや古いアイリッシュの香りに充ちた音楽で、これはこれでメッチャ心惹かれる。二曲だけだが、Anne Martinのゲール語の清いシンギングは、心に沁みる。2018年の"The Rough Bounds"が逆に若々しく進化しているのが面白い。2018作。Daimh)

*ANNE MARTIN:Co.. A

(20年前のベスト･セラー。副題"Gaelic Song from the Isle of Skye"。w.Fiona MacKenzie,Sandra MacKay,Iain MacDonald,Malcolm Jones,Ingrid Henderson,Iain MacFarlane,etc.1998作。Whitewave)

*HO-RO:Hex B

(ついついニンマリしてしまう若きスコティッシュ･フォーク･ロック･バンドになってしまったHo-roの二枚目。前作は補強メムバーが加わって四人組だったが、本作は一姫六太郎の何と七人組。前作でも感じたことだが、彼らの魅力は若者らしいエネルギーとセンスがストレートに発揮されたスコティッシュ･ミュージックで、本作はドラムスやエレキギターが加わった分、若さ、活き活きさ、ノリの良さが倍増、しかも音で遊ぶセンスも開いていて、気分は最高に爽快。その爽快さの中、紅一点のシンガーのLucy嬢のシンギングが光る。Lucyは英語とゲール語の両言語の唄をうたっているが、素直なシンギングは清純感があって初々しい。スコットランドの若者に受けるだろうな。2018作。Ho-ro)

*LINSEY AITKEN & KEN CAMPBELL:Shore To Shore C

(待望の男女のヴォーカル･デュオの Lindsey & Ken の新作は､スコットランドとの関係で海外に思いを馳せて作った二人の自作曲が中心で､大海原へと出航していくような大きな気分になるアルバム｡スコティッシュ流にコブシの利いた Ken のシンギングは､シーシャンテをうたう船乗りのように意気揚々として身震いするほど真に力強く､Lindsey のシンギングは､無事な航行を願う海の女神や船にそよぐ潮風のように優しく麗しい｡二人によるチェロ､ノーサンブリアン･パイプス､リュートなどの音色が中世･ルネサンス風の情緒を添えていて､音楽の気品を高めている｡スコットランド民謡の"The Hills Are Clad In Purple"をうたう Lidsey のシンギングと Ken 自作の"Clydeside"をうたう Ken のシンギングはとりわけ痺れる｡2018 Bridgegate Music)

*JOSIE DUNCAN & PABLO LAFUENTE:The Morning Tempest　　B

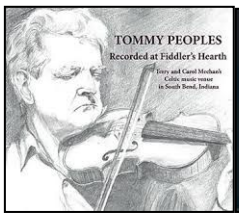
(2017 年の BBCRadio 2 の"Young Folk Award"賞受賞の男女の二人組 Josie Duncan{ヴォーカル}&Pablo Lafuente{ギター}のフレッシュなデビュー作｡スコットランドのゲール語の伝統歌三曲他をうたう Josie 嬢のシンギングは泣ける曲も意気揚々とした曲も軽やかで､正に新緑な輝きと初々しさ｡微に入り細をうがつ胸キュンなシンギングは天賦の才能としか思えない素晴らしさ｡｢新緑｣なのは相方のギターの伴奏もまたスコットランド生え抜きの若手演奏家達の演奏も同じ｡ラストを飾るのは､九分以上にも及ぶマウス･ミュージックの"Potato Puirt"｡この曲は 19 世紀半ばにハイランド地方を襲った｢ジャガイモ飢饉｣をテーマにして作られた唄を Josie が寄せ集めたもので､本作のハイライトにもなっている｡この曲､４分１８秒から二分ほど音なしの状態があります｡2018 作｡Oak Ridge)

*DOUGIE MacLEAN:A Robert Burns Selection　　¥2390

(1982 年の"Craigie Dhu"から１曲､1988 年の"Real Estate"から１曲､1991 年の"Indigenous"から２曲､1995 年の"Tribute"から６曲そして新録曲１曲"Heiland Harry"を加えた全 11 曲収録の Robert Burns ソング集｡2018 作｡Dunkeld)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系]

デジパック･タイプを含め､元々開封されているものが多数あります｡





(Tommy Peoples)　　(Grianan)

*TOMMY PEOPLES:Recorded At Fiddle's Hearth　　¥2390

(故人となってしまった Tommy Peoples の 2005 年のライヴ｡場所は米国インディアナの"Fiddle Hearth"というパブ｡実演で腕に染み込ませた豊富なレパートリーの引き出しの中から､思いつくま

まに即座に曲を選んで演奏しているかのような音楽の自由さと孤高さは、まるで草原を自由に飛びまわる野鳥のよう。全 35 曲の 16 トラック。今となっては Tommy Peoples 氏のサイン入。在庫数僅か。2016 作。Tommy Peoples)

*TOMMY PEOPLES & PAUL BRADY:The High Part Of The Road A
(在庫数僅か。1977 年/1994 作。Shanachie)

*GRIANAN:The Maid Of Erin B
(幻のスーパー・グループの Grianan の 1993 年作。メムバーは、Tommy Peoples, Siobhan Peoples, Paul McSherry, Kevin Crawford, P. J. King, Martin Murray, Pat Marsh, John Maloney そして女性ゲーリック・シンガーの Niamh De Burca。余裕綽々の愁いを含みつつ、勢いのあるアイリッシュにただただ酔うのみ。1993 作。CD-R。West Winds)

※上記三枚は先月故人となった Tommy Peoples 関連のＣＤです。
あとがきで T. Peoples のことを少し書いています。







(Kevin Burke) (Kathleen Loughnane) (High Seas)

*KEVIN BURKE:An Evening With Kevin Burke B
(副題"Tunes & Stories"。2016 年１回と 2017 年２回の計３回のソロ・コンサートのライヴ音源からのライヴ盤。三つの会場の内一つは、Matt Molloy のパブ。終始 Kevin Burke のスッピンのフィドル演奏。そのフィドルの演奏が終わるたびに大きな拍手。この孤高感があって、美しいフィドルを聴いて思い出したのは、今から 45 年前、Arlo Guthrie の"Last Of The Brooklyn Cowboys"{1973 年作}で初めて聴いた Kevin Burke のフィドル。嘘みたいに響きがそっくり。アイリッシュなどに全く興味がなかった時代に、今までに耳にしたことのない夜空に自由に光る線を描くようなフィドルの響きに心惹かれたが、Kevin のフィドルはなぜか、オカロランの曲一曲を除いて、45 年前と同じような響き。その奏法の強固さに改めて感動。ちなみに 1972 年、Arlo はミルタンマルベイのパブで Kevin Burke の演奏を聴き、翌年ロスに招待したという。Kevin は"Last Of"の A 面一曲目でフィドル・ソロ{一曲目のクレジットには、"Fiddles - Kevin Burke(County Sligo, Ireland)"と記されている}と B 面４曲目でフィドル伴奏をしている。2018 作。Loftus)

*KATHLEEN LOUGHNANE:Patrick O Neill's Manuscript C
(小鳥のさえずりとともに始まるヴェテラン・アイリッシュ・ハープ奏者の Kathleen Loughnane の新作は、Patrick O'Neill{1765-1832}が収集したフォーク・ミュージックの数々を図書館所蔵の楽譜から独自のアレンジで蘇らせたアルバム。彼のコレクションはアイルランドのみならずスコットランド、イングランド、中央ヨー

ロッパにまで及んでいて、本作ではアイリッシュを中心にしながらも、他の地域の音楽まで、Kathleen スタイルの輝きのあるアイリッシュ風ハープ・サウンドで聴き手を魅了する。ほぼ全曲で息子の Cormac がイリアンパイプス又はホイッスルで共演していて、Kathleen の優雅で気品のあるハープ・サウンドと重なり合って、Patrick O Neill が生きた時代の領主の館で開かれるような舞踏会がイメージされる優雅で気品のある音楽が見事に創り出されていて、聴き惚れてばかり。聴いてるときも、聴き終わっても気分華やか。ゲスト:Alec Finn{ﾌﾞｽﾞｰｷ}。2018 作。Kathleen Loughnane)

*KATHLEEN LOUGHNANE:Harping On A

(現在、アイルランドで彼女ほど伝統的アイルランドハープの奏法を継承し、様々なダンス曲やオカロランの曲や 17－18 世紀のハープ曲を新鮮なアレンジ演奏できるハープ奏者はいないだろう。w.Alec Finn,Sean Ryan,Cormac Cannon,Sharon Shannon,Seamus Begley,Mary Bergin,Jacqueline McCarthy,Martina Goggin, etc. 2002 作。Reiskmore Music)

*KATHLEEN LOUGHNANE:Harp To Heart C

(バンティング・コレクションからのハープ曲と伝承曲からの 15 曲。彼女は独自のアレンジでハープ・ミュージックの名曲一曲一曲に息を吹き込むようにスピリット高く、愉快に上品に厳かに演奏する。w.Alec Finn.Cormac Cannon。2005 作。Reiskmore Music)

*THE HIGH SEAS:The High Seas ¥2390

(Antoin Mac Gabhann の娘の Caitlin Nic Gabhann{ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ､ﾀﾞﾝｽ}と Altan の Mairead の甥の Ciaran O Maonaigh{ﾌｨﾄﾞﾙ}の Caitlin&Ciaran 夫妻にシャンノース・シンガーでフィドル＆ブズーキ奏者の Cathal O Currain を加えたトリオによる新作。いやはや Caitlin &Ciaran のお二人を要にした音楽の絶品なこと！それもひけらかす演奏ではなく、各メムバーの演奏は細やかで、呼吸をするようにテムポがよく、演奏者同士が最も気持ち良く響き合える音楽を創り上げている。伝統音楽にまみれて育って、その中から美しく咲いた蓮の花のように真に芯から美しいアイリッシュ・ミュージックだ。いくら聴いても聴き飽きないと思えるほど音楽が自然体で、凛としていて清々しい。演奏だけでも言葉なしな上に、Cathal のソフトなシンギングと Caitlin のシンギングは静かに心に響く。2018 作。The High Seas)







(Anton&Caitlin) (Therese McInerney) (Pete,Karen,Andrew)

*ANTON MacGABHANN & CAITLIN Nic GABHANN
:Tobar Bhride ¥2390

(Antoin MacGabhann{ﾌｨﾄﾞﾙ}と Caitlin NicGabhann{ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ､ﾀﾞﾝｽ}の父と娘による初アルバム。父親を通してアイリッシュに親しん

でその道を進んで、父親とはまた違うアイリッシュの美しい花を咲かせている娘、その親子が親しんできた思い出の音楽を仲睦まじく演奏したアルバム。思い出の音楽には、Caitlin と Ciaran の結婚式で父 Antoin が Caitlin のために作った曲や Caitlin のコンサーティーナの先生だった Rena Traynor{1995 年没}を偲ぶ催しで、Caitlin が作曲したという曲や 1970 年代初めに Antoin が働いていたところで聴いて好きになったというコークのバンドの演奏曲や昔クレア･フィドラーの Junior Crehan から習ったという曲等々、色とりどり。w.Brian McGrath{ﾋﾟｱﾉ}。2018 作。Caitlin NicGabhann}

*THERESE McINERNEY:Down The Strand ¥2390

（クレアの女性アイリッシュ･フィドラーの Therese のデビュー作。Vincent Griffin や Paddy Canny や Bobby Casey などのクレアのフィドラーの影響を受けたという彼女のフィドルは、クレアの曲のみならず様々なアイリッシュをクレアのフィドル･ミュージックの空気を保持したまま健やかに演奏していて、爽快な気分になる。そのクレア以外の様々な曲の、一本気なクレアっぽさが孤高というか、何とも味わい深くて心も体もニコニコ。クレアらしい翻るようなニュアンスに富む演奏は最高。実は彼女はシンガーでもあって、アパラチア民謡や Iarla O Lionaird のシンギングを聴いて好きになったというゲーリック･ソングなど三曲をピアノとフィドルの伴奏で清々しくシンギングする。2017 作。Therese McInerney）

*PETE QUINN,KAREN RYAN,ANDREW MacNAMARA
:From Camden To Tulla ¥2390

（ロンドンの Cherish The Ladies と思っている London Lasses のフィドル奏者の Karen Ryan とご主人の Pete Quinn がクレアのヴェテラン･アコーディオン奏者の Andrew MacNamara のお宅に乗り込んで？セッションしたアルバム。これちょっと、コメントも何も書きようがないというか、わが家の猫も「ニャッホー!」と鳴いて踊り出しそうなくらい軽やかで楽しいセッション。クレアのケーリー･バンドっぽいのと、古きロンドンのパブ･セッションっぽいのが混ざりあったような、ちょっぴり古そうな、しかし恐ろしく小刻みに躍動感のあるダンスの空気に充ちたアイリッシュ。縦揺れのリズムにワクワク。2017 作。Lo La）





（Music Of Mayo） （Billy&Gerry）

*MUSIC OF MAYO ¥2890

（メイヨー出身のストーリーテラーでフルート＆ホイッスル奏者の Emer Mayock が企画したメイヨーを拠点に今現在活動するトラッド･シンガーとミュージシャンの音楽をフィールドレコーディングなどで収録して二枚組に収めた企画アルバム。ハープ奏者の Grainne Hambly{3 曲}をはじめとして、Emer Mayock{ﾌﾙｰﾄ}, Holly

Geraghty{ﾊｰﾌﾟ},Astrid Ni Mhongain{ｼﾝｶﾞｰ},Joe Carey{ﾌｨﾄﾞﾙ,ｱｺ},John McHugh{ﾌｨﾄﾞﾙ},Batty Sherlock{ｼﾝｶﾞｰ},John Hoban{ﾌｨﾄﾞﾙ},Fiachna O Mongain{ｱｺ},Tom Doherty{ｱｺ}ほかによるシンギングや演奏が全 34 曲。録音時の 2017 年の時点でのメイヨーの伝統音楽の今を記録したアルバム。豪華三つ折りパッケージ。簡短なミュージシャンと曲の解説付。2018 作。The Linenhall Arts Centre)

*BILLY CLIFFORD & GERRY HARRINGTON
:Now She's Purring ¥2390
(シュリーヴルークラの二人の巨人 Billy Cliford{ﾌﾙｰﾄ}と Gerry Harrington{ﾌｨﾄﾞﾙ}によるデュオ･アルバム。昔､Julia & Billy Clifford の演奏で惚れ込んでしまったシュリーヴルークラ地方のアイリッシュ。今､二人の老人が手慣れた感じで､小鳥がさえずるように様々なタイプのアイリッシュをヒュルヒュルっと演奏する。音楽は今が旬。Julia さん､ラッパ付きのシュトロー･フィドルを持ってご登場。全 15 トラック。Billy Clifford)

*BERNADETTE MORRIS:Where The Heart Is A
(Paul Brady が大絶賛した 2013 年のデビュー CD"All The Ways That You Wander"から５年。その間､結婚そして一児の母親になったという女性アイリッシュ･シンガーの Bernadette の５曲収録ミニアルバム。デビュー CD がトラッド志向だったのに対し､本作は日常生活で感じた想いなどを Bernadette 自身が自作･共作で作ったオリジナルなアイリッシュ･フォーク。曲の構成はまるでアイリッシュの精鋭バンドの歌姫のような毅然としたシンギングが生えたタイプの曲が二曲と Mary Black がうたったら良さそうな心に響く名曲タイプのアイリッシュ･ソングが三曲。全曲､トラッドをうたうのと変わりなく､アイリッシュの香りが高い。絶品。2018 作。Bernadette Morris)

*BRENDAN MULHOLLAND･CONOR LAMB･DEIRDRE GALWAY
:Music In The Glen C
(Realta のイリアンパイプス&ホイッスル奏者の Conor Lamb と Realta のギター奏者の Deirdre Galway と Conor Lamb のホイッスルの先生で､"Jean's Hill"という素晴らしいアイリッシュ･フルート･アルバムを発表しているフルート奏者の Brendan Mulholland のトリオによる新譜。ゲスト:Dermot Moynagh,Neil Martin,Christine Galway,Donal O'Connor。｢This is incredible music!｣とは Lunasa の Kevin Crawford。2018 作。BCD01)

*ANDY IRVINE & LUKE PLUMB:Precious Heroes ¥2390
(Andy Irvine が Shooglenifty のメムバーで名マンドリン奏者 Luke Plumb と組んだ新作だが､Andy が Luke Plumb と行ったオーストラリア･ツアーに合わせて､2016 年 12 月にオーストラリアで発売されたものを Andy 自身がミックスし直し､改めて発売したもの。何ですかぁ､この老いることを知らぬ Andy の意気揚々として軽やかなシンギングのオンパレードは！おそらく相方の Luke のマンドリンやブズーキの妙技も功を奏しているのだろう。Luke の自在に跳ね回る妙技に躍らされるように Andy のシンギングも躍る。Andy にとって

まるで「わが春」のような生命力ある新作だ。w.John McCusker, Mike McGoldrick,James Mackintosh,Kate Burke & Ruth Hazleton,Rens van der Zalm{Mozaik}。2018 作。Andy Irvine)

*FERGUS McGORMAN

:Sweeping The Cobwebs Out Of The Sky ¥2390

(スライゴー/ロスコモン・スタイルの名フルート奏者 Catherine McEvoy を母に持つ Fergus McGorman の爽快デビュー作。曲目はデダナンのレパートリーだったり、Liam O'Flynn から学んだ曲だったり、オカロランの曲だったり、地域に関係なく好きなアイリッシュを清々しい朝に、最高な気分で演奏したかのように最高に気持ちの良い音楽。Matt Molloy が Fergus のフルートの演奏を「彼自身の音楽的な声でおしゃべりする」と表現しているが、Fergus のフルートはしっかりアイリッシュしているのだが、本当に好きにおしゃべりしているように聞こえる。w.Paddy McEvoy{ﾋﾟｱﾉ},Ruairi McGorman{ﾌﾞｽﾞｰｷ},John Blake{ｷﾞﾀｰ}。2017 作。Fergus McGorman)

*JIM McKILLOP:Tribute A

(ユニークなアイリッシュ・フィドラーの Jim McKillop の 2007 年のアルバム。ユニークというのは、アイリッシュの選曲も多彩な上にシェトランドやスコットランドやラグタイムや Ry Cooder に捧げたカントリータッチの曲やハンガリーのダンス曲やジャンゴ・ラインハルト風ホーンパイプ等々、国境もジャンルも超えて、様々な風合いのフィドル音楽をやってのけていること。アイリッシュもメチャ上手い。驚きの全 23 トラック。Jim さんと一緒にいるワンコロも「音楽最高!」と吠えてるよう。フィドル・ファン笑顔保証。w.Pat Conroy{ｷﾞﾀｰ}、James Quinn{ﾋﾟｱﾉ}。2007 作。OnLine Music School)

*DAN HERLIHY & JOHN DREW:The Ballydesmond Polka A

(副題"Traditional Irish Music From Sliabh Luachra"。子どもの頃に Tom Billy,Din Tarrant,Jack O'Connell,Padraig O'Keeffe などのようなシュリーヴルークラの演奏家の影響を受けたというアコ奏者 Dan Herlihy が Dan の音楽に興味津々なマンドチェロ奏者の John Drew と組んで制作したシュリーヴルークラの音楽。Dan のアコ演奏は孤高というか、集中力のあるというか、これまでに聴いた名だたる演奏家によるシュリーヴルークラの音楽の中で、もっともスッピンな感じのする見事な音楽。全 14 トラック全曲が耳に新鮮。2000 年頃のリリース。DHJDCD001)

*MIKE & MARY RAFFERTY:The Road From Ballinakill A

(Mike Rafferty{ﾌﾙｰﾄ}と Mary Rafferty{ｱｺ}の父と娘のデュオ・アルバム。Mary は Cherish The Ladies のメムバーで現在元 Danu の Donal Clancy の奥さん。もうほんとんどのアイリッシュ・ファンがご存じのようにアイリッシュのコアの旨みがたっぷり味わえる不滅の名盤。w.Donal Clancy{ｷﾞﾀｰ},Gabriel Donohue{ｷﾞﾀｰ、ﾋﾟｱﾉ、ﾊﾞｳﾛﾝ},Willie Kelly{ﾌｨﾄﾞﾙ},Kathleen Glyn{ｳﾞｫｰｶﾙ}, Michael Rafferty{ｳﾞｫｰｶﾙ}。2000 作。在庫数僅か。Mike&Mary Rafferty)

*MICHO RUSSELL

:Traditional Irish Music From County Clare ¥2800
(在庫数僅か。1997 年作。Celtic Music)
*KILFENORA CEILI BAND:Live In Lisdoonvarna C
(メムバーは、Anne Rynne, Conor McCarthy, Garry Shannon, Tim Collins, Sheila Garry, Fintan McMahon, Anne Marie McCormack, John Lynch, Sean Griffin, Anthony Quigney。2002 作。Dolphin)
*THE SAILOR'S CRAVAT:The Sailor's Cravat A
(Paddy O'Brien のアイリッシュ・グループ。メムバーは Paddy に Tom Schaefer{ﾌｨﾄﾞﾙ}, Paul Wehling{ﾌﾞｽﾞｰｷ}に Paddy の奥方の、シンガーで小説家{の Erin Hart の四名。Sean Ryan や Paddy Fahy 等のフィドル奏者作曲のダンス曲等を含む様々なダンス曲を多様な表情で楽しませる。もうこれは熟練の技、あうんの音楽としか言いようのない螺旋模様を描いて舞うアイリッシュ・ミュージックの連続。ヤッホー！の一枚 2011 作。New Folk)
*PADDY O'BRIEN:Mixing The Punch A
(Sailor's Cravat のリーダーで名アコ奏者の Paddy O'Brien の 1947 年製のボタン・アコーディオンによるソロ。2011 作。New Folk)
*COMAS:Charge A
(Solas と Lunasa を掛け合わせて二で割ったようなアイリッシュ・バンド。メムバーは Kevin Burke のいとこの Aidan Burke{ﾌｨﾄﾞﾙ}, Philip Masure{ｷﾞﾀｰ、ｼﾀｰﾝ、ﾌﾞｽﾞｰｷ}, Jackie Moran{ﾊﾞｳﾛﾝ、ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}そして Isaac Alderson{ﾌﾙｰﾄ、ｲﾘｱﾝ・ﾊﾟｲﾌﾟｽ}の計４名。ゲスト:Sylvain Barou。2012 作。Appel)
*MAURICE LENNON:The Little Ones B
(伝統音楽一家 Lennon ファミリーのフィドル名手 Maurice Lennon のソロ。父親は Ben Lennon。Maurice は癌の病で、闘病を繰り返しているという。至芸としか言いようがない素晴らしいアイリッシュ・フィドル演奏だ。ゲスト:Ben Lennon, Brian Lennon, Garry O Briain, Noel O'Grady, Paul Roche, etc. 2013 作。Clo Iar-Chnnacht)
*PAUL McGLINCHEY:Unearthed A
(1990 年代に三度オール・アイルランドのフルート部門チャンピオン P.McGlinchey のフルート・ソロ。Josie McDermott 作のリール曲で軽快に幕開けする本作は、アイリッシュ・フルートのマジックとでも呼びたい演奏の早業で、軽快さと鮮やさで唸らせる。名盤。2008 作。PMG001)
*BOHOLA:Bohola a
(Jimmy Keane{ｱｺ}、Sean Cleland{ﾌｨﾄﾞﾙ、ｳﾞｨｵﾗ}、Pat Broaders{ﾌﾞｽﾞｰｷ、ｳﾞｫｰｶﾙ}から成るシカゴの Bohola の 2002 年作。Shanachie)
*GERRY O'CONNOR:Time To Time a
(Four Men & A Dog のバンジョー奏者の Gerry O'Connor のソロ。w.Bill Whelan, Brendan O'Regan, Tommy Hayes, Mairtin O'Connor, Steve Cooney, Camilla Dorcey, Maunus Lunny。CD-R。91 作。Mulligan)
*NORTH CREGG:And They Danced All Night A
(コークの North Cregg の 1999 年作。シュリーヴルークラのポルカ数曲等 C.Leary のアコを中心にジャンプ力ある演奏で 釘づけにする。

Produced by Niall Valley。1999 作。Magnetic)

*SHAY MICHAEL&MARTIN BLACK:What A Time A

(Mary Black の兄弟の CD。ゲスト:Mary Black。95 作。Dara)

*THE VERY BEST OF IRISH LOVE SONGS B

(３枚組セット。48 曲入。2003 作。Pegasas)

*FIANA Ni CHONAILL:Dathanna an Cheoil C

(音楽一家育ちで、アイリッシュハープのコンテストでいくつもの賞を勝ち取ったという Fiona のキリッとスピリットの高いアイリッシュハープ・ミュージックだ。良い意味で今日の伝統的アイリッシュハープの最高レベルの模範演奏のようで、昨今流行の金属音的なハープ・サウンドと相まって、その真っ直ぐさが実に清々しく快い。曲目はオカロランやオニール・コレクションや Michael Coleman のレパートリーや Cormac De Barra から習った曲や Kane Sisters のアルバムの曲など新旧も地域も様々だが、様々なタイプのアイリッシュを鮮やかに演奏して魅せる。これぞアイリッシュハープ！最初の師は Janet Harbison。ゲスト:Alan Reid{ｱﾗﾝ･ﾚｲﾄﾞ},Niall Carey{ﾊﾞｳﾛﾝ}。2018 作。Fiona Ni Chonaill)

*SEANA DAVEY & STEPHEN DOHERTY:The Esdee Sessions C

(Grada そして Blas のメムバーで、チャンピオン・フルート奏者の Stephen Doherty とアイリッシュハープ奏者として輝かしい受賞歴を持つアイリッシュハープ界のスター Seana Davey 嬢のデュオ・アルバム。「セッション」を冠したアルバムだが、チャンピオン同士による神経を研ぎ澄ませて、腕を競うようなセッションではない。むしろフルートとハープのアイリッシュなサウンドの調和に重きを置いた心重なるセッション。メロディー楽器のフルートは鳥の囀りのように自由にうたい、Seana はアイリッシュのリズムとメロディーを阿吽の息で重ね、奏でる。そのテクニックとセンスの見事さは、並じゃない。2017 作。SD001)

*DANNY DIAMOND:Elbow Room C

(Tara&Dermy Diamond の息子で、フィドラーの Danny のソロ。Danny のアイリッシュ・フィドルは奥が深い。まるでアイリッシュ・フィドルの酸いも甘いも知ったフィドラーのように素朴に渋くこぶしを利かせて演奏する。自身がそのスルメ味の音色に酔っているかのよう。かと思えば、激流の演奏を垣間見せもする。超然としたプレイは見事としか言いようがない。2017 作。Danny Diamond)

*JOANNA HYDE & TADHG O MEACHAIR:One For The Foxes B

(ゲスト・シンガーの Roisin Ni Ghallogaigh とのデュエットによるイエーツの"Prelude"で幕開けし、同じく二人のデュエットによるイエーツの"Tread Softly"で幕を閉じる Joanna Hyde{ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾌｨﾄﾞﾙ}と Tadhg O Meachair{ｱｺ､ｳﾞｫｰｶﾙ}の男女の二人組による本作は、女性フォーク・シンガーとアイリッシュがミックスした清々しいアイリッシュ。2017 作。Joanna Hyde & Tadhg O Meachair)

*JAMES CARTY:Hiding Daylight In Dark Corners A

(John Carty の息子でフィドル奏者の James Carty のソロ。Michael Coleman や Michael Gorman などのスライゴ地方の曲やリートリム地方の曲を多く含む本作はロンドンのパブ・セッションを思い起

こさせる。彼のフィドルの音は洗練された音というよりむしろ古くさく粗く味のある音で、生で鍛えた音を体から発していて、味わいが深い。w.John Carty,John P.Carty{James の祖父},Ted McGowan,Brian McGrath,Francis Gaffney。赤ちゃんのときに父親にフィドルを習ってる写真がカワイイ。全 15 トラック。2017 作。James Carty)

[CD/ＣＡＮＡＤＡ{トラッド他}]

*TICKLE HARBOUR:Battery Included A
(Tickle Harbour の創設者は Red Island の創設者でギタリストの Don Walsh で、Tickle Harbour でヴォーカル、ギター他を担当する Fergus O'Byrne は元 Ryan's Fancy。他のメムバーは Vonnie Barron{ヴォーカル}、Patrick Moran{フィドル}、Gerry Strong{ティン・ホイッスル、フルート}、Francesca Swann{チェロ}。驚くのは曲の多数を占める各種ダンス曲の演奏の素晴らしさだ。Chieftain スタイルだが、演奏力が卓越している上に、音楽のエネルギーはパブ・セッションのテンションの高さをキープ。ゲスト:Seamus Creagh,Paddy Keenan 他。1998 年。Singsong)

*LE VENT DU NORD:Tetu B
(ケベックのトラッド・バンドの四人組"Le Vent Du Nord"の 2015 年作。Le Vent はケベック・トラッドのルーツの音楽を固持し、ケベック・トラッド特有のダンス音楽のリズムを最大限に生かし、活気ある今日のケベック・トラッドを果敢に創作する。2015 作。Borealis)

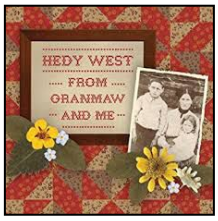
*WENDY MacISAAC:Off the Floor C
(ケープ・ブレトンのフィドル名手の Wendy MacIsaac の 2014 年作。Tracey Dares MacNeill{ピアノ}と Patrick Gillis{ギター}を誘ってライヴ盤を出そうと録音を始めたのが、2005 年。この年に録音したのが最初の５ﾄﾗｯｸ。そしてそれから 9 年後に二人を誘って追加録音。滅茶苦茶凄い。2014 作。Wendy MacIsaac)

[CD/ＡＵＳＴＲＡＬＩＡ]

*KATE BURKE&RUTH HAZLETON:Swapping Seasons A
(オーストラリアの女性ヴォーカル・デュオの珠玉の３枚目。2002 作。Kate&Ruth)

*KATE BURKE & RUTH HAZLETON:Summer's Lonesome Tale A
(アイルランドと英国のフォーク＆トラッドと米国のオールドタイム・ミュージックがほどよくブレンドされた Kate&Ruth の 2007 年作。Paul Brady の名唱でお馴染みの"I Am A Youth That's Inclined To Ramble"や"Barbara Allen"や"The Cookoo"等の伝承歌他全 11 曲。ゲスト:Andy Irvine, Bruce Molsky。2007 作。Tradsville)

[CD/ＵＳＡ{ﾄﾗｯﾄﾞ、ｱﾊﾟﾗﾁｱﾝ他}]



(Hedy West)

*HEDY WEST:From Granmaw And Me B

(祖母の家系が何世代にも渡る英国からの米国移民の家系だというフォーク･シンガーの故 Hedy West{1938-2005}の新作。本作は Hedy が 1954 年から 1980 年に祖母の思い出の唄や物語を記録するためにレコーディングしていた収録曲から 11 曲を選んで収録したアルバム。Hedy のアルバムは Topic など英国のフォーク界から熱い眼差しが注がれることが多かったが、本作も英国の Fldg'ling からのリリース。すっかり米国のオールドタイム･ミュージック化～アパラチアン民謡化した Hedy のシンギングとバンジョーやギターやフィドルの音色。英国系フォーク/トラッドという目線ではなく、親から子に Hedy 家で代々うたい継がれてきた庶民目線の民謡の味わい、それもすっかり米国の土の香りで充ちた民謡の味わいが深い。ふと Rosalie Sorrels の土着的な妖艶さを思い出した。ブックレットの解説もバッチリ。2018 作。Fldg'ling)

[CD/ＮＯＲＷＡＹ]



(Sudan Dudan) (Naragonia)

*SUDAN DUDAN:Heimen Der Ute B

(Anders Erik Roine{ヴォーカル、ギター、口琴、ハルディングフェーレ}と Marit Karlberg{ヴォーカル、ラングレイク}の男女デュオ"Sudan Dudan"の新作は、珠玉の、ブリティッシュ･フォーク･スタイルのノルウェー･トラッド。珠玉と言うと、キラリと輝く印象を与えるかも知れないが、二人の本作は、これまで同様にほの暗さのある珠玉さだ。二人のヴォーカル･デュエットから醸し出されるムードは、Pentangle の音楽のダークな深みに通じるムード。片やフォーク、トラッド、ブルース、ジャズのミックスだが、Sudan Dudan はジャズの感触を民族楽器が醸し出していて、音楽自らオリジナリティーを誇っている。独自の北欧センスに充ちたフォーク＆トラッドを創作していて、心を奪われる。Marit 嬢のほの暗い極北{白夜?}ムードに充ちたシンギングが心に沁みわたる。2018 作。Ta:lik)

*MATTISGARD & ROINE:Sudan Dudan B

(Marit Mattisgard{今の姓は Karlberg}と Anders Erik Roine の Sudan Dudan のデビュー作。当時もしびれたが、今も同じ。もう既に

独自の北欧風フォーク＆ブルースの味わいを煎じ出していて、素晴らしい。タイプライターで打って作ったブックレットの文字が読みづらいのだけが問題。2006 作。Ta:lik)

*NARAGONIA QUARTET:Mira B

(Toon Van Mierlo{ｱｺ､ﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟ}と Pascale Rubens{ｱｺ､ヴァｲｵﾘﾝ}のオリジナル･メムバーに Maarten Decombel{ｷﾞﾀｰ､ﾏﾝﾄﾞｰﾗ}と Luc Pilartz{ヴァｲｵﾘﾝ}を加えた Naragonia Quartet の新作。CD をかけ始めるや、聴き親しんだ Naragonia サウンド。三年前の前作の最後の曲に続く曲が本作の一曲目と思ってしまうほど、少しずつ曲調を変えながら、風の流れや水の流れのように曲がつながっているような、そして落ち葉がヒラヒラ舞い踊るようないつもの彼らの音楽。時々 Blowzabella っぽさを感じもするが、Naragonia が創り出す音楽は、極めて自然体のミュージシャン同士が響き合う音楽。2018 作。Home)

*INGEBJORG LOGNVIK REINHOLDT:Songen Om Guro B

(若き歌姫 Ingebjorg は北欧トラッド風味満点の理想的なシンギングで、極北的に清いシンギングで魅了するのみではなく、柔らかなシンギングやダンスのリズムにのってリズミカルなシンギングでも魅了する。Sarah-Jane Summers{ﾌｨﾄﾞﾙ}, Juhani Silvola{ｷﾞﾀｰ}, Morten Kvam{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ､ヴォｰｶﾙ}による伴奏は必要最小限ながら、先鋭さもある北欧トラッドのつぼを得た演奏で、Ingebjorg のシンギングの極北的質を高めている。2017 作。Talik)

*FOLQUE:Folque C

(ノルウェーのフォーク･ロック･バンドの一枚目。1975/1993 作。Pan)

[CD/ＰＯＲＴＵＧＡＬ]

*JOSE AFONSO:Contos Velhos Rumos Novos C

(ポルトガルを代表する国民的社会派フォーク･シンガーの Jose Afonso の 1969 年作。本作は発売された年の"Best Album"賞を受賞。ポルトガルの民族音楽に根ざした音楽と彼の人柄がにじみ出た柔和なヴォーカルはとても魅力的。1969 年/1987 作。Movieplay)

*CRISTINA BRANCO:Post-Scriptum/Mumurios ¥2800

(独特な感性を持つファドの歌姫 Cristina Branco の"Mumurios"{1998 年}と"Post-Scriptum"{2000 年}の二枚組。発売当時、二枚ともにタムボリンのベストセラー。2002 作)

[CD/ＧＡＬＩＣＩＡ]



(Milladoiro)

*MILLADOIRO:Atlantico C

（アイルランドの Chieftains や Bothy Band あるいはブルターニュの Alan Stivell と同じような音楽を目指してスタートした Milladoiro もデビューからもうすぐ 40 年。多くの経験を経て今聴ける彼らのガリシア音楽は、ガリシアン・トラッドのツボを押さえたというか、ガリシアン･トラッドの酸いも甘いも体で覚えた自然体の響き合う音楽。その響きは中世ルネサンス的な響きをも響かせる。数多くの Milladoiro のアルバムの中でも、これほど聴き手の心に寄り添うような優しさが感じられるアルバムはなかったのでは。優しく、華やかさも感じられる彼らの音楽に小春日和気分。2018 作。Cormoran ）

*MILLADOIRO:Galicia No Tempo(90 作。Discmedi Blau)　　B
*MILLADOIRO:3(92 作。CBS)　　B
*MILLADOIRO:Solfafria(ｹﾞｽﾄ:Paddy Moloney。92 作。CBS)　　B
*MILLADOIRO:Unha Estrela Por Guia(2006 作。Discmedi Blau)B

[CD/ＳＡＲＤＩＮＩＡ]



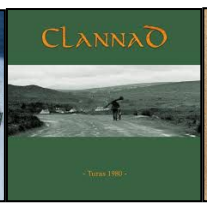
(Elena Ledda)

*ELENA LEDDA:Lantias　　B

（サルディーニャの歌姫の Elena Ledda の 15 枚目。80 年代に出逢って、サルディーニャの伝統音楽に根ざした地中海の香りを含んだ彼女のエキゾティックでエレガントな音楽の虜になってしまったが{同じ頃に出逢ったジョルカ島の Maria Del Mar Bonet にも虜}、あれから 30 年あまり経っても、サルディーニャの伝統音楽に根ざした彼女の地中海風味のエキゾティックでエレガントなシンギングと音楽は不変だが、ある種、例えば Loreena McKennitt のような夢想性というか妖艶さのようなムードが全体を覆うように漂っていて、不思議な気分に襲われもする。還暦を前にして、到達し得た桃源郷のような境地に近い音楽だ。唄と音楽にサルディーニャ人の心が豊かに溢れている。2017 作。Sard）

[ＮＯＷ　ＡＲＲＩＶＡＬ＋]











(Maddy Prior)　(Clannad)　(Mike&Dezi)　(P.J. Hernon)　(Irish Music from Galway)

(CD/ENGLAND)

*MADDY PRIOR WITH HANNAH JAMES & GILES LEWIN

:Shortwinger B
(9/5 入荷予定。"3 For Joy"から６年。Maddy Prior{ヴォーカル} with Hannah James{ヴォーカル､ｱｺ} & Giles Lewin{ヴォーカル､ヴァｲｵﾘﾝ,ヴィｵﾗ､ﾊﾞｸﾞﾊﾟ ｲﾌﾟ他}のトリオによる待望の新作。Maddy Prior 長年のテーマである民俗神話を題材にしたアルバム。今回､どんな音楽を聴かせてくれるか楽しみ！2018 作。Park)

(CD/IRELAND)

*CLANNAD:Turas 1980 ¥2590
(9/5 入荷予定。1980 年､ドイツのブレーメン大学で開かれた Clannad の二枚組ライヴ。音源はラジオ･ブレーメン。1980 年と言えば､彼らの四枚目"Crann Ull"が発売された年。ネットで全曲視聴したが､Moya のゲール語のシンギングの何とたおやかで溌剌としていること！アイリッシュ･トラッドを志向していながら､Clannad 流の魅惑のアイリッシュ･トラッドを果敢に創作していた初期 Clannad のケルトの香りがほのかに漂う魅惑のアイリッシュ。全 19 曲夢の中。2018 作。MIG)

*MIKE MCGOLDRICK & DEZI DONNELLY:Dog In The Fog B
(M.MCGoldrick{ﾌﾙｰﾄ､ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ､ﾊﾞｳﾛﾝ}と Dezi Dnnelly{ﾌｨﾄﾞﾙ､ヴィｵﾗ}の二人による新作。Mike と Dezi が二人の生まれ故郷のマンチェスターで出逢って演奏したのが二人が８歳か９歳のとき。Mike にとって Dezi はおそらく我れに帰れる一番の友なのだろう。本作は一曲一曲についての思い出が綴られていて､いわば二人の思い出曲集で､様々なアイリッシュのオンパレード。オンパレードだが､曲調は中庸というか､Mike のフルートとイリアンパイプスの演奏は Dezi が演奏し易く配慮したような思いやりの感じられる演奏で､Dezi は Mike の演奏に即興で伴奏を付けるように演奏する。アイリッシュの響きが終始優しい。四つ折りのジャケットを開けば､中年おっさんになった二人の写真。さらに開けば､少年時代の二人の写真。あまりの変貌に笑顔。ゴールウェイのパブで二人のギグを観たのはもう 18 年も前か。「あの時､Dezi Dnnelly はまだスリムだったのに」と娘。全 28 曲/12 トラック。2018 作。Boxroom Music)

*P.J. HERNON:First House In Connaught ¥2390
(9/4 入荷予定。アコーディオン奏者 P.J.Hernon の 1986 年作カセット･アルバムがめでたくＣＤ化。1986 年/2018 作。Trad Ireland)

*NED COLEMAN･PATMcMAHON･SEAN WALSH
:Traditional Irish Music from Galway ¥2390
(9/4 入荷予定。Ned Coleman{ﾌﾙｰﾄ},Put McMahon{ﾌｨﾄﾞﾙ},Sean Walsh{ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ} with Carl Hession{ﾋﾟｱﾉ}。おそらくカセット･アルバムの初ＣＤ化。2018 作。Trad Ireland)

*SKIRM & DEZI DONNELLY:Welcome C
(副題"Live In Hamburg"。Skirm{ヴォーカル､ｷﾞﾀｰ}と D.Donnelly{ﾌｨﾄﾞﾙ}の二人組による 1995 年のライヴ。今聴くと､Dezi のフィドルは Dezi の叔父の Des のフィドルと音色から何もかもそっくり。在庫数僅か。1995 作。Magnetic Music)

*DES DONNELLY:Remember Des Donnelly　　B
（ティロン州出身で 1973 年に移住先の英国のマンチェスターで事故死した伝説のアイリッシュ･フィドラーの手を尽くして{テープ録音からの復元のために Dave Pegg や Ralph McTell などに相談したという}蘇った演奏集。フィドル名手の Dezi Donnelly は Des の甥。40 歳のときにはフィドル奏者として名声を得ていたという彼のフィドルは、例えば音色も近いが、Fairport の Dave Swarbrick のような勢いのあるフィドルで、アイリッシュ･パブや野外での生演奏の空気感がみなぎっていて、音楽が活気に満ちている。ブックレット裏表紙や裏ジャケに出稼ぎ労働者と見られるオッサン達の前で演奏する写真があるが、フィドル演奏を聴くオッサン達の笑顔が良い。w.John Roe{ﾋﾟｱﾉ},Leo Donnelly{ｷﾞﾀｰ}。全 17 トラック。2012 作。RNR001）
---

*今回、試しに以前に販売したアイルランド関係のＣＤで、在庫が残っているＣＤ何点かを聴きなおして、改めてコメントしました。温故知新。新たな発見もあるので、これからもちょくちょくやってみようかと思っています。
*Kevin Burke の新作を聴いたら、初めて彼のフィドルを聴いた Arlo Guthrie の"Last Of The Brooklyn Cowboy"(LP)が聴きたくなって、棚から引っ張り出して、聴いたら、この LP の素晴らしさに改めて感動しました。と同時に音質の良さにも。妻は「昔の方が録音技術が良かったんじゃないの」と。各楽器の音が冴えて聞こえるのには驚きました。
*今回ＳＳＷ{Singer&Songwriter}関係は女性ＳＳＷで良いのが多かった印象です。The Band スタイルの The Weight Band と端正なカントリー･ロックの Mountain Heart の二枚目に舌鼓を打ちました。いつも聴く前から音が想像できて、いつも期待通りの Kennedys は新作もまっすぐ西海岸ロックしていて、ヤッホー！でした。
*Liam O'Flynn が亡くなったと思ったら、今度は Tommy Peoples の訃報。Tommy Peoples に初めて手紙を書いたのは、日本人アイルランド音楽家のＭ氏から Tommy Peoples が自主制作で新作"The Quiet Glen"を発売して、日本での販売先を探していると聞き、商談の手紙を書いた 1998 年のことです。メールがまだ普及していない時代でした。仕入れはとんとん拍子に行き、おそらく販売数は当店のベストセラー 10 位に入るかと思われます。次に商談のメールを書いたのは今から二年前。2016 年に発売された"Recorded At Fiddle's Hearth"を仕入れるためでした。ついでにサインを頼んだら、応じてくれました。そのときのメールにはこう書かれていました。
Kiyoshi,it is a beautiful surprise to hear from you. So very unexpected. Hope you and all there are well. I have not played in over four years due to breathing difficulties,-on oxygen fulltime.(2016/9/13)
大切なミュージシャンを亡くしました。ご冥福をお祈りします。
*このカタログが皆さんの手元に届く頃、秋はどこにいるでしょうか？ご注文をお待ちしています。(船津)